**オロロジカル・マシン No1**

**イントロダクション：**視覚、技術、感動といった様々なレベルを通じて洗練を極限まで推し進めた時計、それがオロロジカル・マシンNo1だ。それはマイクロ･エンジニアリングの域にとどまらず、芸術的かつ造形作品でもある。初の三次元マシンを設計し構築することで、MB&Fは伝統的な時計製作技術の枠組みを打ち壊し、新しい領域に踏み込んだのである。

HM1は他の追随を許さぬ独創性を備えた時計である。時間と分は別々の文字盤で示され、中央には1分間のトゥールビヨン、7日巻きパワーリザーブ、そして4つのバレル（香箱）を搭載し、自動巻きと手動巻きの両方が可能である。また、独創的なデザインと構造に加え、376のパーツと81石を使った全く新しいムーブメントを備えている。

技術的に最も目を引くムーブメントの要素は、文字盤の中央に配置された1分間1回転のトゥールビヨンだが、実際HM1のデザインと構成を占めているのは、4つの大きな主要ゼンマイのバレルである。ケースの見まごうことのない量感と、文字盤の幾層もの重なりの双方が、オロロジカル･マシンNo.1の三次元性を余すところなく表現している。

文字盤の深さと複雑性に導かれ斜めに覗き込んでみれば、そこには時間のみならず、もっと多くの魅力に気づかされる。トゥールビヨンのコックから伸びる1本のアームは年代物のブレゲの懐中時計を思い起こさせるが、また同時にムーブメント中心部の動きを見ることができる。

**インスピレーションと実現化：**オロロジカル･マシンNo1の背後には、何人かの重要な人物が佇んでいる。デザイナーのエリック・ジルーはマキシミリアン・ブッサーのスケッチを最終的な三次元モデルに落とし込むため何百時間もの時を費やした。ムーブメント技師のローラン・ベッスと独立時計師で[[1]](#footnote-1)AHCIメンバーであるピーター･スピークマリンは、共に型破りなコンセプチュアル･デザインをマイクロ・メカニカルな現実にまで導いた。ムーブメントの外見がまるで未来からやってきたように見えるとしても、この時計の品質と仕上げは、間違いなく最高レベルの伝統的な高級時計と同等であることを、ベッスの技術的背景とスピークマリンの伝統的時計に関する基礎をおりなした作品となっている。

**オロロジカル・マシンNo1**

**技術革新**：4つの大きな主要ゼンマイのバレルをムーブメントの両側に2つずつ並行配置して使用することで、MB&Fは動力消費を少なくすることに成功し、従って等時性を高め、磨耗を防ぎ、耐久性を高めている。そのすべてが7日間という長時間にわたるパワーリザーブを支えている。

バレルはくびれた分割部分を接続するメカニカル･システム上の必要に基づくだけでなく、左の時間は右の分と、計時的にも時間設定上もシンクロしていなければならない。このため、文字盤の下に特大サイズの歯車が必要となった。極度に薄く鏡面仕上げとなっているこの歯車は、二層になっている精度調整の石の間に浮かぶ形で、巧みに支えられている。

中央の1分間1回転のトゥールビヨンは、ムーブメント内部で文字盤と同じ高さにセッティングされる。それだけでも、十分複雑な機構である。しかしながらオロロジカル・マシンNo.1では三次元構造となっているため、トゥールビヨンは持ち上げられ、中央に独自のステージを形作っている。さらにトゥールビヨンのケージを左右から離すことで力を等しく分散させてトルクを減少させ、ムーブメントの耐久性を高めている。このことが高度に革新的な開発の賜物なのである。

**構造:** ケースの圧倒的な存在感と幾層にもなった文字盤の双方が、オロロジカル･マシンNo1の三次元を余すところなく伝えている。HM1の独特の形状は五感を魅了しつつ、ムーブメントの構造を決定付けている。48もの個別の要素に加え、HM1のケースはそのムーブメントにふさわしい複雑性と他に類を見ないデザイン性を兼ね備えている。

HM1のケースは、すべてのパーツを個別に修理することを可能にするため、モジュール式の構成を実現。

そのデザインは、「海底二万マイル」や「２００１年宇宙の旅」といったインスピレーションの世界を表現したものである。

**表示：**文字盤を見てみよう。左に“時間”、中央に1分間1回転の“トゥールビヨン”、そして右の文字盤が“分”を示している。7日巻きパワーリザーブは、分表示の文字盤内の上部層に表示されている。対になっている上層のサファイアクリスタル・ブリッジは、すべての表示をすっきりとクリアに見せているだけでなく、それを支える4つの支柱は精巧なムーブメントをケースに収納するためのコーンを固定する役割をも担っている。

**オロロジカル・マシン No1　技術仕様**

**ムーブメント:**

1分間1回転のトゥールビヨンを中央に配置することにより、時間と分をレギュレータ的に分離。

7日巻きパワーリザーブ　テンプ振動数28,800 振動/時

22K自動巻きローター（独自のローターデザイン）

４つの主要ゼンマイのバレルは並行配置

石数：81石

部品数：376パーツ（石を含む）

**機能:**

左の文字盤：時間表示

右の文字盤：分表示および7日巻きパワーリザーブインジケータ付

**ケース:**

18Kホワイトゴールド、18Kレッドゴールド、もしくはブラックPVDコーティングベースの３種類から選択可能

サイズ：41 mm × 64 mm × 14 mm

部品数：48

**サファイアクリスタル:**

左右とも文字盤側、両面反射防止加工

ディスプレイ背部、片面反射防止加工

**文字盤:**

シルバー/ルテニウム（シルバー）、ルテニウム/シルバー（ダークグレイ）、オープン（HM1-ブラックとHM1-RS）の３種類から選択可能

サファイアクリスタルによる時・分のブリッジ

**ストラップおよび留め金:**

ハンドステッチ仕上げのアリゲーターストラップに、18Kゴールド（WG、RG）のカスタム仕様のバックル

**時計BOX:**

「エトロ」に特注したピンストライプ柄フランネルに革製のキャリーバック付、レザー化粧箱

**オロロジカル・マシンNo1を創った「フレンズ」たち**

*コンセプト：*マキシミリアン・ブッサー／MB&F

*製品デザイン：*エリック・ジルー／エリック・ジルー・デザイン・スタジオ

*技術･製造管理：*セルジュ・クリクノフ／MB&F

*ムーブメント開発：*ローラン･ベッス、パトリック・レテ／レ・ザルティザン・オルロジェ

*ムーブメント･コンサルタント、品質管理：*ピーター・スピークマリン／ザ・ウォッチ・ワークショップ

*ムーブメント製造：*クロード・ブラン、エルヴェ・シュルシュター／ディミエ

*ムーブメント部品手仕上げ：*ジャック・アドリアン・ロシャ、デニス・ガルシア／CLロシャ

*ケース組み立ておよび製造：*フィリップ・マルティ、ドミニク・メニエ、ベルトラン・ジューネ ／G&Fシャトラン

*文字盤：*フランソワ・ベルンハルト、デニス・パレル／ネイトバー

*針：*ピエール・シリエ、イザベル・シリエ、ギイ・キュリオズ／フィドラー

*化粧箱：*イザベル・ヴォドー／ヴォドー

*コミュニケーション：*

*グラフィック･デザイン：*アルバン・トーマス, ジェラルド・ムリエール／GVA スタジオ

*製品撮影：*マーテン・ファン・デル・エンデ

*「フレンズ」撮影：*レジス・ゴレ

*バーチャルリアリティ画像：*デヴィッド・デラリュー／kdg!

*ウェブ開発：*ステファン・バレ、ギヨーム・シュミッツ／スモー・インタラクティブ

*監修・テキスト：*イアン・スケラーン

*プロジェクトマネジャー：*エステル・トネリ／MB&F

**MB&F　－　コンセプト・ラボの起源**

時計部門の責任者としてハリー・ウィンストンに在籍した７年間で、マキシミリアン・ブッサーに最高の喜びと達成感を与えてくれたプロジェクトは、才能溢れる独立時計師と共に取り組んだ刺激的なオーパス・シリーズであった。その中ではっきりと見えてきたブッサーの独自の理想郷。それは自身が尊敬し、仕事を共にして楽しかった才能あるプロフェッショナル達と型破りなコンセプトを持つ小規模な腕時計シリーズの設計・制作に専念できる会社の設立であった。企業家としての一面も持つブッサーはその理想郷を現実のものとした。

MB&Fは腕時計のブランドではなく、マイクロ・エンジニアリングをコンセプトにした芸術的な研究所であり、斬新なオロロジカル・マシンを設計・制作するために毎年召集される独立した時計のプロ集団である。伝統を重んじながらもそれに縛られることのないMB&Fは、伝統的で高品質な時計作りに最先端技術やアバンギャルドな立体彫刻を融合させる媒体となっている。

独立した人たちのために創作する独立した集団。それがMB&Fである。

**マキシミリアン・ブッサー　―　バイオグラフィー**

イタリアのミラノで生まれたマキシミリアン・ブッサーは、その後、間もなくしてスイスのローザンヌへ移り住み、そこで青年時代を過ごす。多文化な環境と家族の中で育ったため―父親はスイスの外交官で、インド国籍の彼の母親とボンベイで出会っている―ブッサーは自身の人生とビジネスに対し異文化的な幅広いアプローチを取るようになった。

2005年７月、38歳の時に世界初となる時計のコンセプトブランド、MB&F（マキシミリアン・ブッサー＆フレンズ）を設立。設立当初は自身が唯一の株主であったが、現在はセルゲ・クリクノフをパートナーに迎えている。気の合う仲間で構成された少数のハイパークリエイティブなグループで協力し、型破りな時計のコンセプトの開発に専念できる自身のブランド。それが、ブッサーがMB&Fに抱く夢である。MB&Fは2006年に最初の時計、オロロジカル・マシンNo.1（HM1）を発表して以来、2007年にはHM2、そして2008年にはHM3を発表しており、現在もより型破りな「マシン」を開発中である。

企業活動はマキシミリアン・ブッサーの得意分野である。1998年、彼は弱冠31歳でジュネーブにあるハリー・ウィンストン レア・タイムピース社のマネージング・ディレクターに任命された。７年間の任期中、戦略、製品、マーケティング、そして世界規模の流通を開拓すると同時に、デザイン、研究開発、製造を社内で統合し、ハリー・ウィンストンを広く認められた本格的な高級時計ブランドへと成長させた。その結果、売り上げは900％増加し、ハリー・ウィンストンは競争が厳しいこの業界のリーダーの一員となった。

マキシミリアン・ブッサーの最高級時計への愛着は、ハリー・ウィンストンよりも以前に、彼の最初の職場となるジャガー・ルクルトで確立された。1990年代に彼がシニア・マネージメント・チームに在籍し、製品管理・開発からヨーロッパ地域の販売及びマーケティングに至るまでを担当していた７年間で、JLCはその地位を大きく向上させ、売り上げを10倍に伸ばした。

ブッサーは1991年にスイス連邦工科大学ローザンヌ校のマイクロ・テクノロジー・エンジニアリングの修士課程を卒業している。

1. Academie Horlogere Des Createurs Independants、独立創作時計師協会のこと [↑](#footnote-ref-1)